

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【熊本県】

1 実践テーマ	【 Ⅲ ・ Ⅴ 】
2 実施対象者	熊本県立鹿本高等学校 1年生（213名）・2年生（192名）・3年生（232名） 合計 637名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（チャレンジ大会事前指導オリパラ講演会） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピック選手の体験、エピソード、大会を支える仕組みなどを直接聞く機会を通して、スポーツの価値、参加国、地域の文化、言語、共生社会、持続可能な社会、また我が国・地域の伝統・課題について考える機会とする。
5 取組内容	1 チャレンジ大会（20 km走大会）の事前学習（60 分） ・リオデジャネイロオリンピックでの体験談 ・走る意義や喜び、長距離を走るに当たっての注意事項や当日心がけることなどについて理解する。 ・視覚障害者の伴走の方法について理解する。 コミュニケーションの取り方 ロープの使い方 走り方 2 チャレンジ大会当日デモンストレーション ・堀内氏のフルマラソン 2 時間 40 分の自己ベストの走りを体験 堀内氏と男子運動部員 3 名（駅伝部・サッカー部・バスケット部）がフルマラソンの走りを体験。 3 視覚障害者の疑似体験を通してのランニングと伴走の体験学習 ・10km程度のコース内にて男女各1組の生徒が疑似体験を行う。 ・約2 km程度をアイマスクを装着し視覚障害者役と伴走役を交互に体験  

6 主な成果	これまで障害者スポーツに対して理解が薄かった生徒たちであったが、講演だけではなく、体験を通してより身近なものに感じられたようである。 今回の講演会では講師の堀内氏も市民ランナーとして 2 時間 40 分 54 秒という記録を持っておられ、実際に一緒になって走る機会が得られたことで、長距離走が苦手な生徒にとっても、高校生時代の授業としての長距離走で終わらず、卒業後の生涯スポーツとしてランニングに取り組む意識ができたのではないかとと思われる。いつの日かランニングをやってみようと考えてくれることを期待したい。また、得意な生徒にとっては伴走者という新たな視点で長距離走を意識できるようになったようである。自分のためだけではなく人のために自分の特技が生かせそうだというコメントが得られたことは今回の収穫ではなかったかと思う。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	• できるだけ生徒がイメージしやすいように、体験ができるように心がけて計画した。 • 話を聞くだけではなく、身近な生徒の実技（堀内氏とのランニング）も取り入れながら、生徒たちの興味を誘うような企画を考えた。
8 主な課題等	• 今回は視覚障害者マラソンの伴走者である堀内氏に来校していただき、講演を行っていただいた。講師がお一人であったため、体験する生徒も限られた人数しか実施ができなかった。堀内氏の仲間の皆さんや関係機関との連携を図り、より多くの生徒が体験でき、多くのことを感じてもらえるように計画することが重要であると感じた。
9 来年度以降の実施予定	• 次年度は東京オリンピック・パラリンピックの前年度となりメディアなどによりオリンピック予選なども多く取り上げられ、生徒も様々な情報を得ることと思われる。大会を裏で支える大会関係者やボランティアなどにも注目しながら計画ができたらと考えている。